

野々市じょんからまつり関連年表

室町		富樫氏が野々市に館を構え、守護として加賀の国を治める
江戸		富樫氏の善政をたたえ、人々が身分の区別なく踊り明かした（諸説あり）
明治	前期	明治政府が「盆踊りは男女の逢瀬の場になり、風紀を乱す」として、全国的に盆踊りを禁止する。野々市でも、同様に盆踊りが衰退
大正	明治後期～大正	郷土史家木村素堂氏が盆踊り復活運動を始める
昭和	1928年頃（昭和3年）	郷土史家木村素堂氏が「富樫略史音頭」を作詞する
	1935年頃（昭和10年）	粟田と上林の踊りを合わせて富奥じょんからが作られる
	1947年頃（昭和22年）	郷じょんからが誕生。郷村全体で盆踊りを行うため、横江（現白山市）のじょんからをもとにして作られる
	1952年（昭和27年）	野々市じょんから節が全国4,226件の芸能の中から、文部省（当時）の選定無形文化財に選定される
	1955年（昭和30年）	野々市町（現在の本町地区）と富奥村が合併して、野々市町が誕生
平成	1956年（昭和31年）	郷村の一部が野々市町に編入
	1957年（昭和32年）	押野村の一部（押野、押越、野代、御経塚）が野々市町に編入し、市域が現在の姿になる
	1967年（昭和42年）	野々市じょんから節が市（当時は町）指定無形民俗文化財に指定される
	1982年（昭和57年）	毎年お盆に行われていた「野々市じょんから踊り大会」と商工会が開催していた「野々市まつり」を合わせ、「野々市じょんからまつり」が誕生
平成	1990年（平成2年）	第9回野々市じょんからまつり開催。会場が旧役場前から現在の野々市文化会館フォルテに移り、9年ぶりに輪踊りが復活
	1997年（平成9年）	サンバ調の踊り「踊れ！じょんから・la」が初お目見え

#Song

富樫略史音頭（野々市じょんから節）

未熟ながらも拍子をとって 唄いまするは富樫の略史
 声はもとより文句も拙い まずい処を御用捨あれば
 踊りましようぞ夜明るまでも 今を去ること千年以前
 時の帝は一条天皇 雪に埋れてひらけぬ越路
 加賀の司に富樫へ行けど 勅諭かしこみ都を後に
 下り来りて野々市町の 地理を選びて館を築き
 神社仏閣造営いたし 民を愛して仁政布けば
 名僧智識は四方より集い 是等智識に道をば聞きて

下は和らぎ稼しよくを励み 上を敬い富樫を慕い
 代々の司に奏上いたし 勅許ありたる良官なれば
 一の谷やら鶴越と 屋嶋海戦大功樹て、
 兄を名譽の將軍職に 援け上たる義経公が
 落て来りて安宅の関所 家来弁慶読み上げまする
 音に名高き勸進帳に 同情いたして涙で落す
 實にもすぐれし名将智主と 後の世までも歌舞音曲に
 残る徳こそ白峰と高く 麓流るゝ手取の水と
 共に幾千代名は芳ばしく 唄いまするは富樫の略史

♪野々市じょんから節
 はここで聞けます♪



野々市市公式 YouTube
 チャンネルで、野々市
 じょんから節の音源を公
 開しています。

特集

野々市 じょんから まつり

野々市市を代表するまつりの一つ、
 野々市じょんからまつり。盆踊り「じょ
 んから踊り」をはじめ、さまざまなイ
 ベントや多彩な飲食テントを楽しむ
 人々にぎわう野々市の夏の風物詩で
 す。しかし、新型コロナウイルス感
 染症の拡大防止のため昨年に引き続
 き、今年も残念ながら開催は中止に。
 まつりを楽しみにしていた皆さん
 にせめて紙面でまつりを楽しんで
 もらえるよう、今月は野々市じょ
 んからまつりについて特集します。



昭和49年の野々市じょんから踊り大会の様子。
 （会場は野々市小学校）午後8時に始まり、夜が
 更けるまで多くの人が踊りを楽しんだ。



平成2年からは会場が再び野々市小学校に戻り、
 3階建てのやぐらを中心に輪踊りが復活した。（写
 真の撮影年は不明）



平成17年からやぐらが1階建てになり、ステー
 ジと踊りの輪が近づいた。（写真は平成27年）



昭和60年の野々市じょんからまつりの様子。歩
 行者天国となった野々市1番街（現在のにぎわ
 いの里ののいち カミーノ）前を会場にしていた。



昭和59年ポスター



平成15年ポスター



野々市じょんからまつりトリプルAの魅力

#Artistic 芸術的な音楽

日が暮れ始め、並ん立ちょうちに明かりがともる頃、野々市じょんから踊りが始まります。このときに聞こえてくる音色、実は生演奏だと知っていましたか。野々市じょんから節保存会による風情溢れるライブ演奏が踊りの夜に彩りを添えています。



私は昭和43年（1968年）頃、20歳くらいのときにじょんから節の演奏を始めました。当時は町の青年団が、8月15日、16日のじょんから踊り大会の運営準備をしていました。青年団からじょんから節保存会（昭和35年設立）へ

—— 野々市じょんから節保存会は現在、何名で活動していますか。

時を超えて愛されてきた
野々市の民謡



Interview
野々市じょんから節保存会
会長 中村 昭一さん

じょんから節保存会は、囃子方25人、踊り子29人の合計54人のメンバーがいます。年齢は20代から、最高齢は80代までさまざまです。

—— じょんから節保存会に入ったきっかけを教えてください。

私は昭和43年（1968年）頃、20歳くらいのときにじょんから節の演奏を始めました。当時は町の青年団が、8月15日、16日のじょんから踊り大会の運営準備をしていました。青年団からじょんから節保存会（昭和35年設立）へ

節保存会（昭和35年設立）へ

脈々と踊り継がれた踊り
野々市じょんから節は、古くから地元で愛され踊り継がれてきました。もともとは8月14日、15日に本町の旧小学校校庭（現在のにぎわいの里のいちカミーノを中心としたエリア）で盆踊りとして踊られていました。

諸説ある由来



踊り流しの様子（大正期）

国を中世の頃に治めていた武士である富樫氏の善政をたたえつつ、武士や町人、百姓などの区別なく踊り明かしたという説、長崎県平戸に伝わる豊年を祈る念仏踊り「自安和楽（自ら安んじて和やかに楽しむ）」という意味の「ジャンガラ」のことを起源とする説などがありますが、いずれも確かなものはありません。戦後になると、民俗芸能への関心が高まり、じょんから節はより洗練された踊りや芸風を目指して楽曲や衣装にも工夫が凝らされるように。現在の野々市じょんからまつりの踊り大会で見られるような姿になりました。

#Abundant 豊富なグルメ

まつりの楽しみといえば屋台。地域の飲食店20店舗以上が軒を連ね、それを求め市内外から多くの人々が訪れます。定番の焼きそばから個性溢れるメニューまで多彩なラインナップが楽しめるのは、魅力的な飲食店が多い野々市のまつりならではの。



—— じょんからまつりの焼きそばはおいしいと評判ですよね。

まつりの思い出をつなぐ
青年部伝統の「焼きそば」



Interview
市商工会青年部
部長 勝地 あきらさん

毎年、商工会青年部で焼きそばの飲食テントを出店しています。商工会青年部は、「じょん走中」などのイベントやステージ進行などまつり全体の運営を行っているため、約20人のメンバーが交代しながら焼き場を守っています。

—— おいしさの秘訣が知りたいです。

毎年好評で、2019年には2日間で目標とした3500食を完売しました。おいしさの秘訣は「青年部伝統の作り方」にあると思っています。



チームワークの良さもおいしさの秘訣

います。調味料の量、蒸しのタイミングなどを歴代の先輩から大切に引き継いでいます。まつりの2週間前には、鉄板を使って本番と同じ環境で練習して、部員の技術向上と味の確認を行います。部員たちの熱い思いがこもった青年部伝統の味です。

—— 来年のまつりに向けての思いを聞かせてください。

暑い野外での調理でへとへとになりますが、次の年にまたやりたいと思うのは、まつりの成功のために部員が一人ひとりが取り組んだ達成感、そして焼きそばを喜んでくれる皆さんがいるからです。来年は部員一同「やっとな焼ける」「焼きそばを待ってるやつがおる！」の気持ちで、焼きますのでぜひ食べに来てください。

中は、地域で教室をしていたり、こだわりのマイ三味線を使っていたりと、とても良い音で演奏していますのでぜひ注目して聞いてみてください。私は笛を担当しているので、ぜひ笛も聞いてほしいのですが（笑）。

—— 野々市じょんから節の「楽しみどころ」を教えてください。

野々市じょんから節はかつて野々市の地を中心に加賀一帯を治めていた富樫氏の善政を唄っています。歌詞をたどりながらじっくり聞いてもらえると、歴史を感じて楽しいと思います。踊りは、東京音頭や炭坑節と比べるとテンポがゆったりしていて優雅なところが魅力です。手と足の動きがバラバラなので最初は難しいと感じるかもしれませんが、やったら簡単なのでぜひ来年は踊ってみてくださいね。

